

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人カオス		
事業所名	グループホームこすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方は人生の先輩。その心を持って生活を共にさせていただいています。出来る事、家事活動やレクリエーション・日々暮らしていただいている中で気づいた事を大切に職員間で共有し次のケアに活かしていけるよう努めています。自分で決めて行動する事、自分の思いを伝える事を大切にし一つ一つお伺いしながらご本人の思いに沿ったケアをさせていただいています。その時々状態に応じたケアを心がけ、特に食事については、その人の生活のリズムやペースに合わせ振っていたいでいます。嚥下困難がある方には、食事形態を工夫し食材が多数使用している料理をミキサー食の方に提供する時は色別にミキサーを掛け彩りに変化を加え、食器も料理の一つと考え彩りを添えて楽しんでいただけるよう工夫をしています。細やかな観察と気づきを共有し、訪問歯科診療・訪問診療・急変時の往診等協力病院やかかりつけ医と連携し入居者の方の健康の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所は協力医療機関が隣接しており、利用者の大部分が協力医療機関をかかりつけ医としている。受診困難な方については月2回の往診があり、利用者は適正な医療を受けられる体制となっている。さらに看護師が配置されており、管理者を中心に全職員が利用者の健康管理に努めている。
 2 近隣の中学校とは職場体験、相撲大会見学等の交流があり、利用者の楽しみになっている。
 3 地域のボランティア(マジックショー・フラダンス・舞踊・傾聴・草むしり、窓拭き等)を多く受け入れており、地域住民と交流している。また、地区の文化祭に毎年利用者の作品を出展するなど、地域の行事にも積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示し、全員で共有している。日々ケアの振り返り、ミーティング等で確認しながら理念に基づいた実践に繋げている。	理念には「住みなれた地域でより家庭に近い環境を整え・・・」と明記しており、理念は事務室に掲示し、全職員が週例の「ミーティング」等で確認し、共通の認識のもと日々のケアの中で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報誌を配布したり、地域の文化祭に参加し、ホームの活動について広報活動を行っている。又地域のボランティア・高齢福祉課にボランティアに登録されている方においていただいている。中学生の職場体験・ボランティア活動の受け入れや初任者研修受講生の実習受け入れ等地域の方との交流の機会を設けている。	中学生との交流は恒例となっており、介護実習生も受け入れている。ボランティア等も数多く受け入れ、利用者の楽しみとなっている。地域の文化祭に利用者の作品を出展しており、見学にかけ、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座にキャラバンメイトとして地域の方に認知症の方の対応方法について講話を行った。見学者や、入居申込に来られた方の相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二か月に一回開催。ホームの近況報告。課題についてはメンバーの方からの意見を取り入れ改善できるよう努めている。	開設13年を迎えた事業所であり、運営推進会議は年間を通して2か月に一度定期的に開催されている。会議では各委員から多くのアドバイスや提言があり、事業所運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	注意報や警報が出された後には必ず市の担当者の方から、安全確認の電話をいただいております。繋がりを感している。事業所の取り組みについては広報誌を通してお伝えしている。傾聴ボランティアの方と一緒に入居者の方とお話していただき事業所の取り組みを感じていただいている。	行政の担当者とは日頃から利用者の状況や情報の交換をし良好な関係を築いている。また、行政からは災害注意報や警報等が出された場合には安全確認等の連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為に夜間のみ行っている。転倒予防の為に離床センサーを設置しているが行動制限を行わないケアを実践している。又言葉による拘束にも留意したケアも行っている。	事業所の教育委員会を中心に研修会を実施している。身体拘束の弊害、特に言葉による拘束等については、全職員が意識を共有し毎日のケアで実践している。日中玄関の施錠は無く、センサーや職員の見守りにより対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加・勉強会・ミーティングで虐待について学ぶ機会を設けている。利用者の方それぞれに虐待になっていないか日頃のケアを振り返り職員間で確認しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講義の依頼で学ぶ機会がもており、資料ファイルでいつでも閲覧できるようになっており、インターネットの情報も活用している。又家族の方の相談にも対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書で持って説明し、その際利用者の方・ご家族の方の意向を伺っている。十分に理解していただいたうえで契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは、日常生活の中で意向を伺っている。ご家族からは面会時や行事後の家族会を通して意見要望表せる機会を設けている。	訪問時や利用者の状況報告等の機会に家族の意向を把握している。また、年間を通して多くの家族が事業所行事への参加があり、これらの機会にも把握しており、出された意見等はミーティング等で検討し運営や利用者へのサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回ミーティングを行っており、職員一人一人意見・提案を出せる場を設けている。出席できない職員にも事前に意見を聞き、反映される事で意欲の向上に繋がっている。	事業所では職員がいつでも意見や提言を言える環境にあり、提案事項等はミーティングで話し合い、日々のケアに活かされている。提案事項によっては法人に上申されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度からはキャリアラダーのシステムを導入し個々のレベルに応じた評価表を策定した。評価表を活用し昇給・昇進に反映させている。全体ミーティング皆勤者・各事業所で頑張ったと評価された職員への感謝状などは仕事の意欲へと繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価表を活用し実際の力量と照らし合わせ、把握している。職員個々のキャリアやスキルに合わせた研修や教育の機会を設け又指導する力を育てる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議やグループホーム協議会、社会福祉協議会等の研修会参加や他事業所の見学等で交流を図っている。又、そうした中での情報交換等を行いながらサービス向上をさせていく取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態又はご家族のお話など伺い、ご本人の要望に添えるよう、日々の生活の中で関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からご本人の今までの生活歴をお聞きしつつ、その会話の中で、ご家族の不安や要望に耳を傾けながら常日頃から関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時等ご本人やご家族の今現在のニーズを見極めるためにお話一つ一つに耳を傾けて対応に努めている。家族の方の了解のもとに、今まで利用されていた介護サービスの職員等から情報を得、介護の継続に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場という中で入居者の方の経験を活かしていただきながら、時にその方の体験から学ばせていただきながら、暮らしを共にする者同士の関係を感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃からホームでのご本人の様子をご家族の方が来所時等にお伝えし、ご家族からもご本人の生活歴の中から情報をいただき、ケアに活かした事も報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は、ホール又は居室でゆったりとお話する機会を持っていただき、地域の馴染みのある場所、人との関係が途切れないよう支援に努めている。	以前の同僚や友人等の訪問があり、ゆっくり話し合える環境を提供し、馴染みの関係が継続できるよう支援している。訪問理美容院を受け入れており、入居後新しい馴染みの関係を築いている利用者も多い。利用者個々にドライブ等で馴染みの場所に出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の関係を把握し、席の場所等を工夫し、時に職員が間に入りお話のきっかけをつくらせていただく等の配慮をしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの手紙や、主治医を介して近況報告を受け、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子・会話等を記録し、必要な時にカンファランスを行いモニタリングを含め職員全体でご本人の希望や意向の把握に努めている。	利用開始時の事前調査や家族からの情報だけでなく、日常のふれあいの中の何気ない会話等から利用者の意向や希望を聞き漏らさないようにしている。把握した意向等を踏まえ、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報や、ご家族の方からお伺いするエピソード等記録や口頭で職員間で共有し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子を日誌記録に残し、アセスメントシートを活用しモニタリング時に確認し、日々の生活を安心して送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期又は変化がみられた時にモニタリングを実施し、職員全体で、気づきを共有し話し合いを行いご本人の思いやご家族の意向を伺い介護計画に反映している。	現状把握を十分行い、利用者の実情に即した介護計画を作成している。支援内容も目標達成するために具体的な内容となっている。また、介護計画の見直しについては、個別記録をもとに課題を検討し、介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを大切に、積極的に発信しカンファランスを開きその時の状態に応じたケアの実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方に入っただいたり、身体的状況においてはその時々にあった福祉用具を家族の方と相談し福祉用具担当者からアドバイスを得ながら安全で安楽な生活を送っていただけるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議・地域包括ケア会議など地域の方との話し合いの場を持ち、ご近所の方との関わり等色々な方面から情報を得、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の方の希望を大切にし、かかりつけ医を選択していただいている。受診前に報告書や家族の方を通じて状態報告をし、受診後は受診時の様子を含めて家族の方から受診結果の報告を受け適切な医療を継続していただけるよう支援している。	利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは、受診困難な方については月2回の往診がある。専門医等の受診には家族対応を基本としているが緊急等の場合は職員が対応する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護日誌を介護看護日誌とし、日々の状態を記録し情報や気づきも職員全体で共有し健康を保てるよう気を付けている。状態の変化時は、看護師に報告し速やかに治療につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状を確認しながら、面会に伺い、ご本人の体と気持ちの把握し主治医から家族の方了解のもとに病状説明に同席させていただき、家族の方の相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合は、どのようなことに留意しながら介護させていただいているのか家族の方にお話ししている。また、今後予測される症状の変化とそのことに対してどのような治療が考えられるのか、家族の方と主治医から説明を受け、事業所で出来ること出来ないことを説明し、今後の生活について方針を共有し安心して生活できるよう取り組んでいる。	事業所として「重度化・看取り介護の方針」が策定されており、利用時に説明している。重度化した場合にはその都度、家族の要望を聞きながら医師と相談のうえ柔軟に対応している。看護師も常勤しており、ターミナルケアは実践済みである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命の講習を受けている。 その他、勉強会にて知識・実戦力を身につけられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。ご近所の方にも参加していただいている。地域の消防団の方に視察依頼している。	消防署立ち合いの防災訓練は年1回実施している。事業所の防災委員会が中心となり年間の計画に沿って訓練を重ねており、通報訓練・消火器訓練・避難誘導・連絡網の活用などを実施している。非常時の備品として水・レトルト・缶詰類・ガスコンロ・ストーブ等を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊敬の気持ちを持った言動を心がけている。身体介護に当たっては、その方に聞こえる範囲での声の大きさに対応している。	職員は担当制としており、教育委員会を中心に接遇研修を実施しており、利用者への声掛け等には尊厳を損なうことのない対応を徹底している。利用者の個人情報等は施錠可能なキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事活動・レクリエーションへの参加や日常生活の様々な場面でも、一つ一つお伺いし、ご本人が決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方のリズムやその時々状態に応じてご本人の希望を伺いながら、生活のリズムを整えることも視野に入れて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをしていただく時や外出時に洋服を選んでいただくよう努めている。選んでいただく際はご本人の好みの色合いのものをお出しおしゃれを楽しんでいただけるよう工夫をしている。定期的に美容師の方においでいただき、外出の困難な方の髪形を整えるなどの支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	皮むきや盛付けと一緒に食事の準備をしていただきながら、旬の食材やお好みの食べ物の話題など、食べる事が楽しんでいただけるよう支援している。	朝食は納入業者から納入しているが、昼・夕食は事業所で調理している。食材は近くのスーパーから購入しているが、近隣住民から野菜等の差し入れが多く、常に季節感のある食事となっている。職員も一緒に食卓を囲み和やかな食事風景である。年間を通して行事食も多く実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事・水分摂取量をチェックし、好みのものに偏りがちな方にもバランス良く栄養を取っていただくよう食材の形態や硬さなど考慮している。嚥下困難な方にはその時々状態に応じとろみの濃さを調整し安全に摂っていただけるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の保持に留意し、毎食後ご本人の出来ることを見極めながら声かけや介助を行っている。口腔内の状態やうがいの困難な方、誤嚥しやすいかた等一人お一人に合わせて歯ブラシやスポンジなど使用し安全面にも考慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人のトイレサインを見逃さず、トイレに案内している。また排泄チェック表からパターンを読み取り排泄の自立に向けて支援している。	利用者個々のチェックシートをもとに仕草などからさりげなく誘導し、トイレでの自然排泄を目標に支援している。利用開始時にオムツ使用であった方がリハビリパンツに改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションやモップ掛け・歩行練習などで活動的に動いていただけるよう努めている。水分チェックし野菜を多く取っていただくように献立を工夫し便秘予防を図っている。便秘時は温罨法やマッサージを行っている。下剤については適宜調整し、便秘・下痢による苦痛の緩和に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方のタイミングや希望に沿って気持ち良く入浴していただけるように努めている。浴槽の出入りが困難な可については2人対応で出来るだけ浴槽に入っていたきゆったりと温まっていたりよう支援している。	利用者の希望により入浴支援を行っている。入浴拒否者には話題・時刻や担当職員を変えながらタイミングを見計らい誘導している。入浴が困難な人にはシャワー浴や足湯・清拭などで対応している。季節風呂として菖蒲湯・ゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠訴えのある方にホールにてお話を伺いながら暖かい飲み物をお出ししたり、安心して休んでいただけるような支援をしている。状況に応じて、生活のリズムを考慮しながら休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の内服薬ホルダーに薬の情報の用紙を一緒に入れておき、いつでも確認できるようにしてある。また翌日の服薬の準備時に確認できるよう薬袋にも薬の名前を記入してある。服薬についてはお一人お一人の出来ること・嚥下状態に合わせて安全に服薬していただけるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族の方の情報から今まで楽しんでできたことや、今出来る楽しみは何か日ごろの会話や活動から見出し、ご本人の思いを確認しながら、針仕事や他の家事活動を職員もお付き合いしながら、生き生きとした生活を送れるよう支援している。誕生会や行事等楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品の買い出し等に一緒にいていただいたり、天気の良い日にドライブに出かけたり、車椅子でご近所を散歩したりして楽しんでいただいている。	好天時には事業所近辺の散策をしたり、食材の買出し時に同行して利用者の日用品等の買物の支援をしている。庭の手入れやサンデッキでのお茶会等で外気浴や日光浴を楽しんでいる。また利用者個々の対応であるが、ドライブで鶴ヶ城周辺・七日町通り・桜の季節には会津大学周辺や柳津町等の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の身の回りの品を買いに行くのに同行させていただいたり、食材などの買い物に同行していただき支払いをその時の状態に応じてお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方からの電話は、いつでも取次、お話しできるように支援している。ご本人から電話をしたいと申し出があった時は家族の方と曜日・時間と相談したうえで電話をしていただいている。携帯電話は自由にお使いいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってホールの飾りつけをしたり、温度・湿度は適温適湿に努め、居心地よく過ごせるよう心がけている。職員の声や台所でもものがぶつかり合う音・掃除機の音は極力控え目にし騒音とならないよう注意している。室内の明るさは適宜カーテンブラインドを使用し適度な明るさを心がけている。	共用空間には机と椅子のエリアと和室がある。天窗から日光が降りそそぐ構造になっており、居心地のよい空間となっている。廊下には利用者の作品や事業風景の写真の展示などもあり、和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方同士の相性等を考えて、テーブルの席や、レク時の位置等を考慮しその時々状況に応じ居心地の良い空間作りに努めている。廊下の一角にソファを配したことで、歩行練習の途中で一休みしていただいたり職員や家族の方とゆったり話のできる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	今まで使用していた家具やなじみのものをご本人や家族の方と相談しながら居室に配し居心地の良い安心してゆったりと過ごしていただける環境となるように配慮している。	居室はフローリングとなっているが、利用者の好みに合わせて全面畳敷きも出来、洋室・和室仕様どちらにも対応可能となっている。エアコン・換気扇・ナースコール・等が装備されている。利用者はベット・小箆箆・テレビ・椅子等好みのものを自由に持ち込み各自個性的な居室となっている。各部屋からベランダに出られ、災害時の誘導には有効となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の居室入口の飾り扉とホールの椅子を同じ色にし出来るだけと惑いなく行動できるよう工夫している。廊下や居室の移動空間は障害物を置かないよう注意している。		